沖縄県における平成 22 年の毒蛇咬症

沖縄県衛生環境研究所
衛生科学班　松田聖子・真保栄陽子

I　はじめに

沖縄県における平成 22 年（2010 年）の毒蛇咬症患者はハブ咬症 48 件、ヒメハブ咬症 9 件、サキシマハブ咬症 21 件、タイワンハブ咬症 1 件の計 79 件であった。これは昨年を大幅に下回る件数となった。

今年はガラスヒバァやタイコブラ等のハブ属以外の毒蛇による咬症事故は確認されなかった（表-1, 2、図-1）。ハブ咬症による死亡者はなかった。また名護市で定着が確認されているタイワンハブによる咬症は確認できなかった。

最近 10 年間の傾向をみると、ハブ単独では 60 件前後とほぼ横ばいとなっている。サキシマハブ咬症は 20～30 件前後推移し、ほとんど変わっていない。ヒメハブ咬症も 10 件前後を推移している。タイワンハブは 05, 06, 08, 09 年に咬症被害が報告されている。そのため四種の合計でも 100 件前後とほぼ横ばいの状況となっており、例外が平成 16 年と今年のみである。

II　調査方法

沖縄県内で発生したハブ咬症による患者は治療を受けた病院より所管の保健所を通じて、毎月沖縄県薬務衛生課へ「ハブ咬症患者取扱報告」として報告される。さらに、診療にあたった病院が「ハブ咬症患者調査票」に基づき、受傷に関する詳報を患者から聞き取り、保健所を通じて衛生環境研究所に郵送する。ハブ咬症患者調査票には記入漏れがある場合が多く、それは直接咬症患者本人や病院に問い合わせて内容を補完した。しかし連絡の取れない患者もあり、充分とはいえない。

なお、被咬者が毒蛇の種類を確認していない場合には、八重山地域（石垣市、竹富町）では実害のある毒蛇はサキシマハブだけなので、サキシマハブとして集計した。一方沖縄諸島ではハブもしくはヒメハブの可能性が最も高く、また糸満ではサキシマハブ、名護市周辺や恩納村山田周辺ではタイワンハブの可能性も否定できない。だが、このようなヘビの種類が特定できない事例は、最も可能性の高いハブ咬症として集計した。

調査にあたって各抗毒素常備施設と各保健所の職員の方々に大変お世話になりました。厚くお礼を申し上げます。

表-1 最近10年間のハブ類咬症発生状況

年	ハブ			サキシマハブ			ヒメハブ	タイワンハブ	計	
	件数	死	受傷率	件数	死	受傷率	件数	件数	件数	死
01	61		0.050	30		0.62	6		97	
02	61		0.050	32		*0.61	9		102	
03	63		0.051	23		*0.42	7		93	
04	43		0.035	22		*0.37	3		68	
05	67		0.054	26		*0.49	13	2	108	
06	62		0.049	30		*0.54	10	2	104	
07	61		0.048	27		*0.45	8		96	
08	65		0.051	21		*0.41	8	1	95	
09	55		0.043	33		*0.55	7	1	96	
10	48		0.037	21		*0.41	9	1	79	
計	586		0.046	265		0.49	80	7	938	

受傷率：人口1000人あたり受傷件数
*八重山諸島における咬症件数/八重山諸島人口×1000

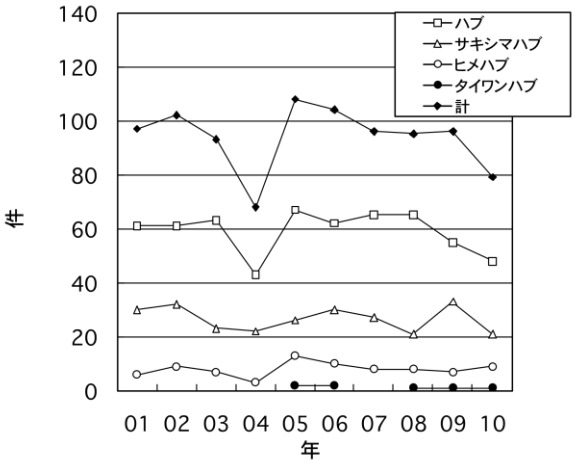

図-1 最近10年間のハブ類咬症発生状況

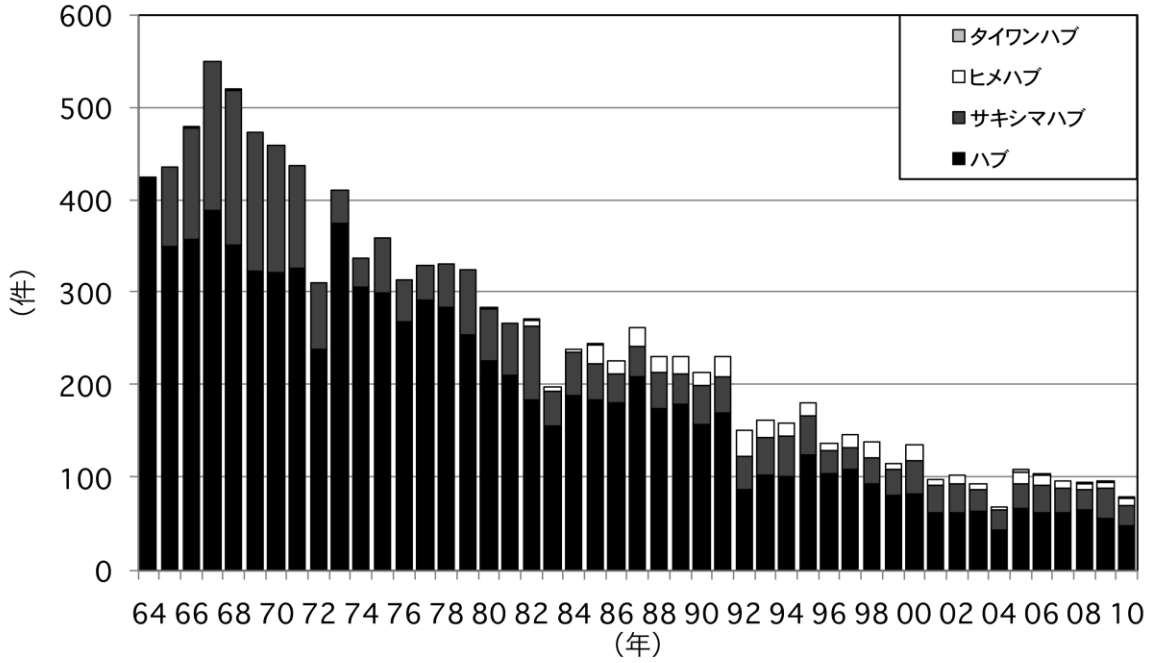

図-2 沖縄県のハブ類咬症の推移

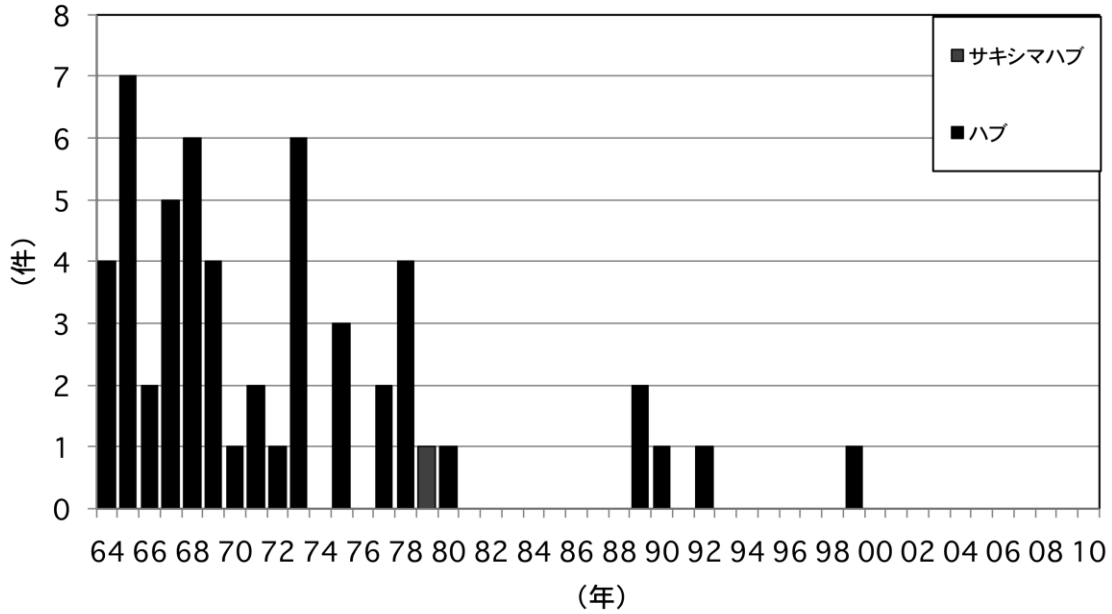

図-3 ハブ類咬症死亡件数の経年

表-2 沖縄県の毒蛇咬症の推移

＼種 年＼	ハブ	死亡 件数	ｻｷｼﾏ ハブ	死亡 件数	ヒメ ハブ	ﾀｲﾜﾝ ﾊﾌﾞ	ｳﾐﾍﾋﾞ	ｺﾌﾞﾗ
64	424	4						
65	350	7	85					
66	357	2	121		1			
67	389	5	160					
68	351	6	167		1			
69	323	4	150					
70	321	1	137					
71	326	2	111					
72	239	1	71					
73	374	6	36					
74	306		31					
75	299	3	60					
76	268		45					
77	292	2	37					
78	283	4	48					1
79	254		71	1				
80	226	1	56		1		1	
81	210		57					
82	183		80		7	1		
83	156		37		4			
84	188		47		3			
85	184		38		21	1		
86	180		31		14			
87	208		33		21			
88	174		39		17			
89	179	2	33		18		1	
90	157	1	42		15		2	
91	170		39		21			
92	86	1	37		28			1
93	103		40		18			
94	100		44		15			
95	124		42		15			
96	104		25		8			
97	109		23		14			
98	93		28		18			
99	81	1	27		7			
00	82		36		17			
01	61		30		6			
02	61		32		9			
03	63		23		7			
04	43		22		3			
05	67		26		13	2		
06	62		30		10	2	2	
07	61		27		8			
08	65		21		8	1	1	
09	55		33		7	1		
10	48		21		9	1		
計	8839	53	2429	1	364	9	7	2

表-3　最近10年間の市町村別毒ヘビ咬症件数（11(

1.ハブ咬症

年	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	計
国頭村	2		2	1		6	2	1	5	4	23
大宜味村	2	1	1	1		1		3	1		10
東村			1	1	1		1			1	5
今帰仁村		2	1		2	1	1	1	2		10
本部町	1	3	2		1	5		2		1	15
名護市	2	1	1	2	4		2	2	1	3	18
伊江村			1					2		2	5
伊平屋村								2			2
宜野座村		1		1	1	1	1	2	1		8
恩納村	1				1		1			1	4
金武町	2	3		1	1	1	1	2	2		13
石川市※	3		1	1							
具志川市※		1	4	2	12	6	7	11	4	8	79
与那城町※	4	2	3	4							
勝連町※	1	1	3	1							
読谷村	1	1	4	3	5	2	3		2	2	23
嘉手納町	1						1				2
北谷町			1			1	2	1		1	6
沖縄市	5	2	2	1	4	3	3	1	6		27
北中城村	1	1	2		1			1		1	7
宜野湾市	2		1	1	2	2	2		1	1	12
中城村		1			1		1	4			7
西原町	2	2		1		1	2	3	2		13
浦添市	1	1			1	3	1			1	8
豊見城市	5		1		1		2				9
糸満市	10	6	8	7	6	2	2	7	8	9	65
東風平町★	2	4	4	4	1	9	8	1	7	2	54
具志頭村★	1	2	4	2	3						
玉城村☆	4	5	3	2	3						
知念村☆	1	2		1	2	8	8	4	8	4	69
佐敷町☆		1	2		2						
大里村☆		2	1	4	2						
南風原町		6	2		2	2	2	2	1	1	18
与那原町	1				1						2
渡嘉敷村	1					1					2
久米島町	2	5	5	2	6	3	3	7	2	4	39
渡名喜村											0
那覇市	3	5	2		1	4	5	4	2	1	27
不明			1					2		1	4
計	61	61	63	43	67	62	61	65	55	48	586

2.ヒメハブ咬症

年	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	計
沖縄県	6	9	7	3	13	10	8	8	7	9	80

3.サキシマハブ咬症

年	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	計
石垣市	22	23	13	16	22	20	19	16	21	17	189
竹富町	7	6	7	2	2	7	4	5	7	4	51
沖縄本島	1	3	3	4	2	3	4	0	5	0	25
計	30	32	23	22	26	30	27	21	33	21	265

4.タイワンハブ咬症

年	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	計
名護市					2	2			1	1	6
今帰仁村								1			1
計					2	2		1	1	1	7

5.ウミヘビ咬症

年	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	計
不明						2		1			3

★東風平町・具志頭村は2006年1月に合併して八重瀬町となったため、2006年以降のデータはまとめている

☆玉城村・知念村・佐敷町・大里村は2006年1月に合併して南城市となったため、2006年以降のデータはまとめている

※石川市・具志川市・与那城町・勝連町は2005年3月に合併してうるま市となったため、2005年以降のデータはまとめている

III　調査結果

１．ハブ咬症

平成 22 年のハブ咬症件数は昨年より 7 件減少した（表−１）。市町村別に見ると、糸満市の 9 件が最も多く、次いでうるま市の 8 件、国頭村・南城市・久米島町の各 4 件、名護市の 3 件、伊江村・読谷村・八重瀬町の各 2 件、東村・本部町・恩納村・北谷町・北中城村・宜野湾市・浦添市・南風原町・那覇市の各 1 件でハブ咬症患者が発生した。また、南部の病院を受診していることから南部での受傷と思われるが市町村不明となっている事例が 1 件ある。なお、大宜味村・今帰仁村・伊平屋村・宜野座村・金武町・嘉手納町・沖縄市・中城村・西原町・豊見城市・与那原町・渡嘉敷村・渡名喜村の 13 自治体でハブ咬症が 0 であった(表−4、図−4)。

市町村合併で単純な比較はできないが、最近 10 年間の累計では糸満市や南城市、うるま市を中心とする地域で多く咬症患者が発生している。

２．ヒメハブ咬症

ヒメハブ咬症は国頭村・大宜味村で各 2 件、本部町・伊平屋村・うるま市・読谷村・南城市で各 1 件であった。ただし、上記のハブ咬症件数の中には咬んだヘビの種類を確認できていない場合が過半数を占めている。その中にはヒメハブ咬症も含まれていると予想されるので、ヒメハブ咬症の実数はもう少し多く、その分ハブ咬症が少ないと考えられる。

なお、ヒメハブは毒牙が短く、毒量も少ないので、重症になることが少ない。ちなみに、これまでヒメハブ咬傷者の死亡記録はない。

３．サキシマハブ咬症

サキシマハブ咬症は、石垣市 17 件、竹富町 4 件と、前年より 12 件減少した。今年は糸満市による咬傷事例はなかった。糸満市のハブ類咬症被害の件数にほとんど減少が見られないのは、サキシマハブの影響も考えられ、被害拡大が懸念される。

サキシマハブもハブより毒が弱く、治療に際して血清を使わない事が多い。平成 22 年に血清を使用した患者は 2 名だった。

４．タイワンハブ咬症

タイワンハブによる咬症は名護市で 1 件だった。

聞き取り調査によるとタイワンハブの目撃例も多いことから、今後も注意が必要である。

表-4 2010年受傷市町村別月別毒ヘビ咬症件数

ハブ咬症

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
国頭村					1	2				1			4
大宜味村													0
東村										1			1
今帰仁村													0
本部町						1							1
名護市			1				1					1	3
伊江村										1	1		2
伊平屋村													0
宜野座村													0
恩納村					1								1
金武町													0
うるま市		1	1	1	2				1		2		8
読谷村					1						1		2
嘉手納町													0
北谷町							1						1
沖縄市													0
北中城村										1			1
宜野湾市							1						1
中城村													0
西原町													0
浦添市							1						1
豊見城市													0
糸満市	1		2	1	2	1					1	1	9
八重瀬町							1		1				2
南城市	1		1				1				1		4
南風原町					1								1
与那原町													0
渡嘉敷村													0
久米島町			1		1			1		1			4
渡名喜村													0
那覇市									1				1
不明											1		1
計	2	1	6	2	9	4	6	1	3	5	7	2	48

ヒメハブ咬症

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
国頭村						1	1						2
大宜味村									2				2
本部町									1				1
伊平屋村									1				1
うるま市		1											1
読谷村								1					1
南城市										1			1
計	0	1	0	0	0	1	1	1	4	1	0	0	9

サキシマハブ咬症

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
石垣市	1	1	3	1	4	1			3	2		1	17
竹富町				1	2					1			4
計	1	1	3	2	6	1	0	0	3	3	0	1	21

タイワンハブ咬症

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
名護市											1		1
計											1		1

表-5 2010年 市町村別ハブ類受傷件数と人口千人当り受傷率

順位	受傷市町村	ハブ	ヒメハブ	ｻｷｼﾏハブ	ﾀｲﾜﾝハブ	計
1	石垣市			17		17
2	うるま市	8	1			9
2	糸満市	9				9
4	国頭村	4	2			6
5	南城市	4	1			5
6	名護市	3			1	4
6	久米島町	4				4
6	竹富町			4		4
9	読谷村	2	1			3
10	大宜味村		2			2
10	本部町	1	1			2
10	伊江村	2				2
10	八重瀬町	2				2
14	東村	1				1
14	伊平屋村		1			1
14	恩納村	1				1
14	北谷町	1				1
14	北中城村	1				1
14	宜野湾市	1				1
14	浦添市	1				1
14	南風原町	1				1
14	那覇市	1				1
23	今帰仁村					0
23	宜野座村					0
23	金武町					0
23	嘉手納町					0
23	沖縄市					0
23	中城村					0
23	西原町					0
23	豊見城市					0
23	与那原町					0
23	渡嘉敷村					0
23	渡名喜村					0

順位	受傷市町村	受傷件数	受傷率
1	国頭村	6	1.1601
2	竹富町	4	0.9948
3	伊平屋村	1	0.7337
4	大宜味村	2	0.6242
5	東村	1	0.5609
6	久米島町	4	0.4713
7	伊江村	2	0.4140
8	石垣市	17	0.3622
9	糸満市	9	0.1574
10	本部町	2	0.1445
11	南城市	5	0.1258
12	恩納村	1	0.1010
13	読谷村	3	0.0779
14	うるま市	9	0.0775
15	八重瀬町	2	0.0763
16	名護市	4	0.0655
17	北中城村	1	0.0631
18	北谷町	1	0.0363
19	南風原町	1	0.0282
20	宜野湾市	1	0.0107
21	浦添市	1	0.0091
22	那覇市	1	0.0032
23	今帰仁村	0	0
23	宜野座村	0	0
23	金武町	0	0
23	嘉手納町	0	0
23	沖縄市	0	0
23	中城村	0	0
23	西原町	0	0
23	豊見城市	0	0
23	与那原町	0	0
23	渡嘉敷村	0	0
23	渡名喜村	0	0

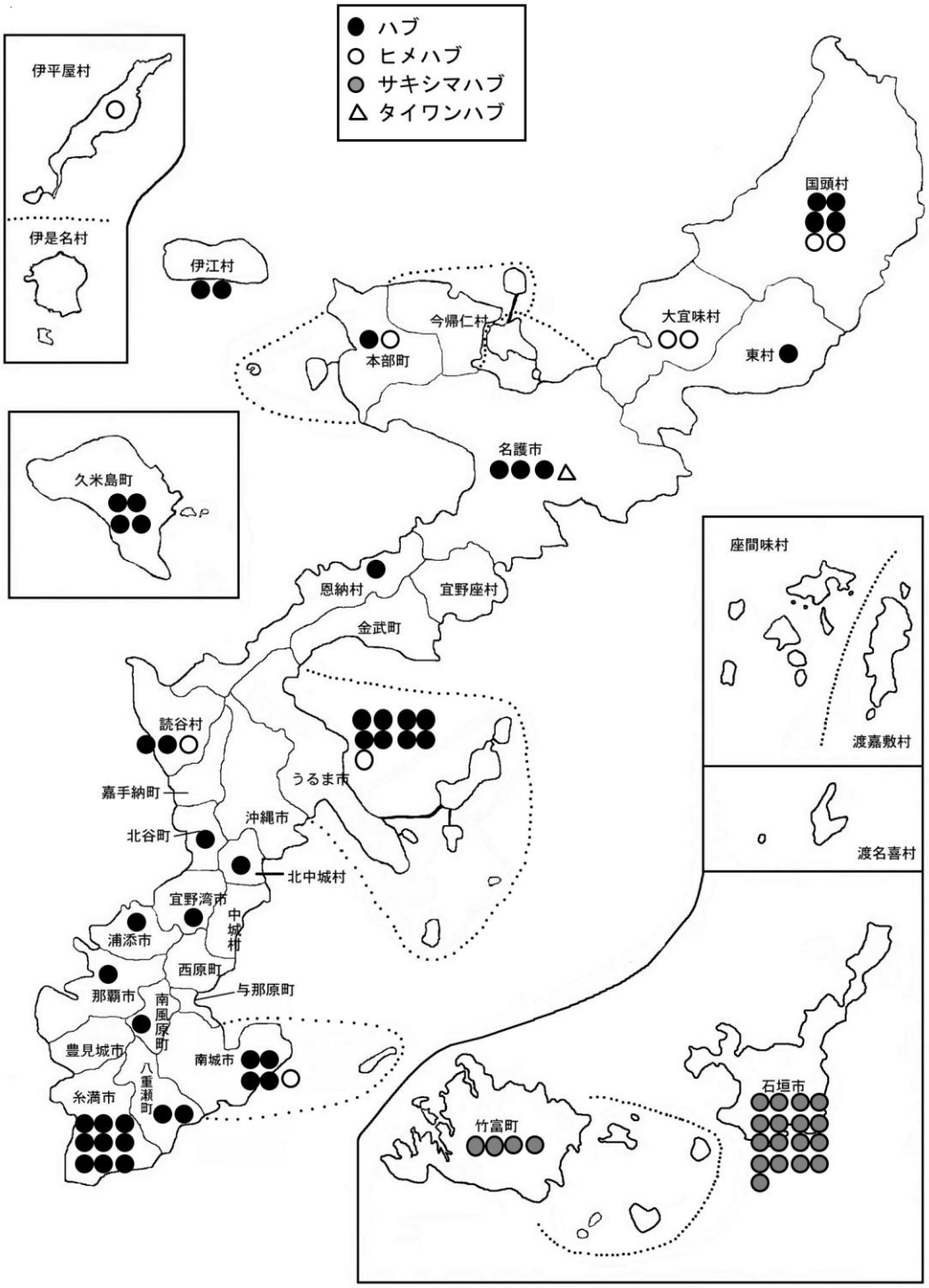

図-4　2010 年　市町村別ハブ類咬症件数

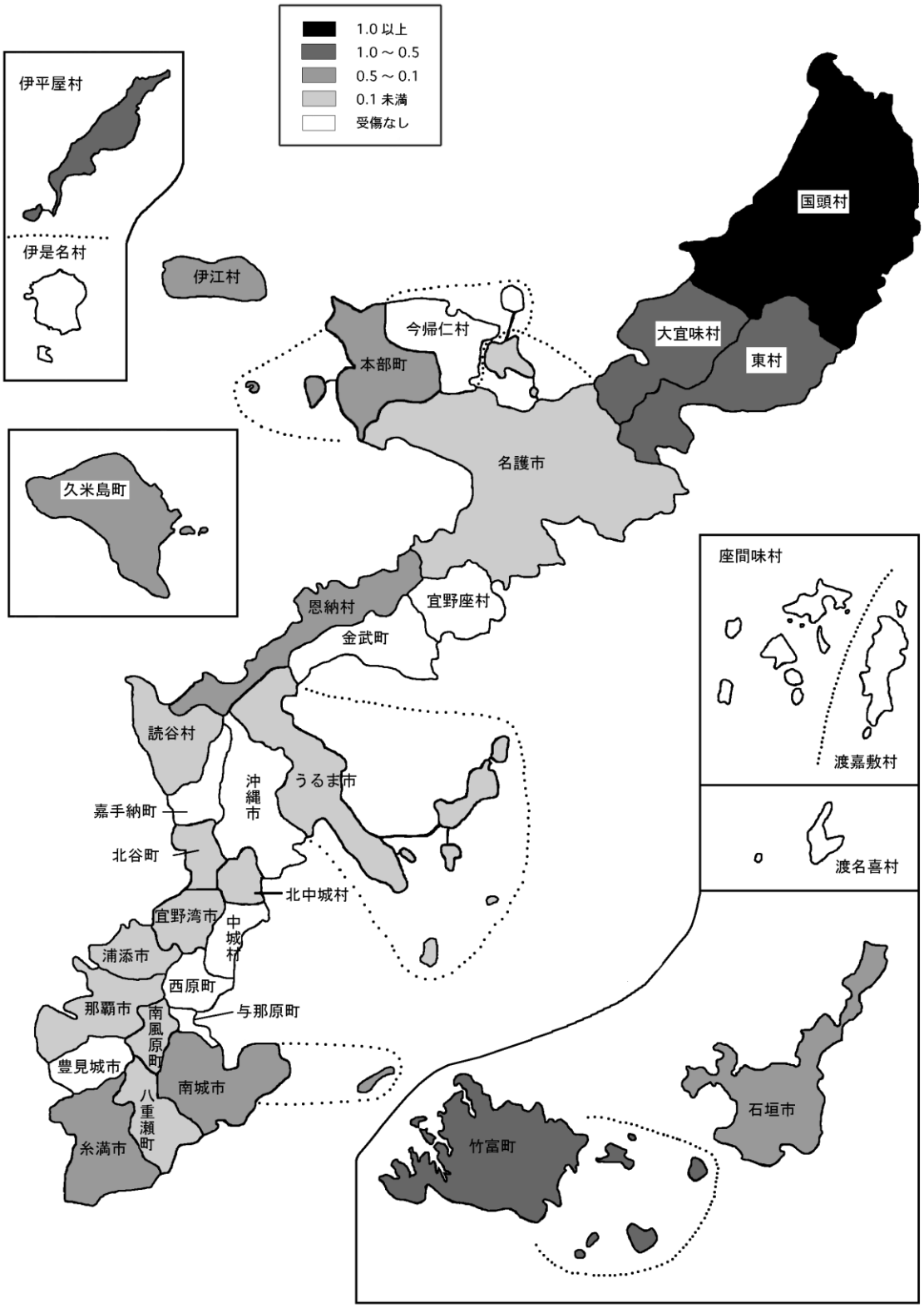

図-5　2010 年　市町村別人口千人当たりハブ類受傷率

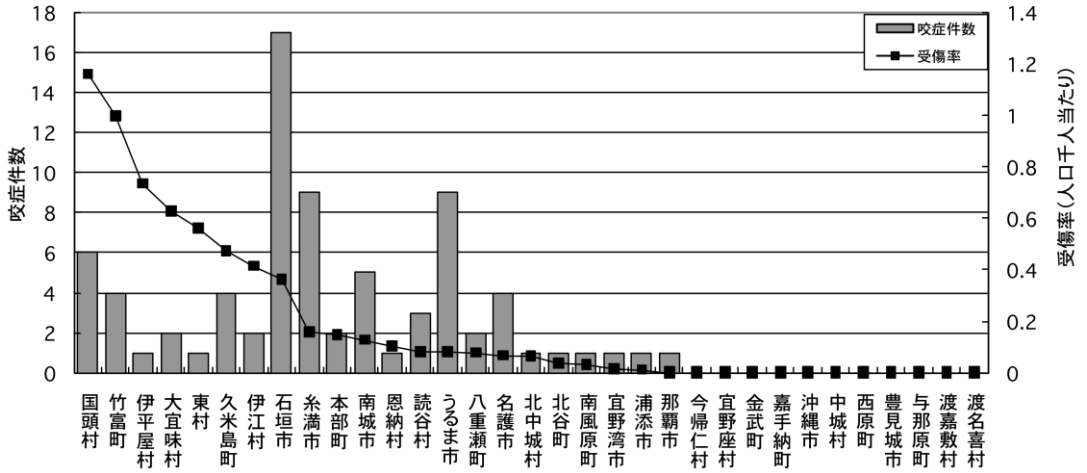

図-6 2010年市町村別ハブ類咬症件数と人口千人あたり受傷率

５.人口 1000 人あたりの受傷率

ハブ・ヒメハブ・サキシマハブ・タイワンハブの 4 種の咬症患者の合計を市町村別に人口千人あたりの受傷率で見ると、国頭村が 1.16 と最も高い。次いで竹富町 0.99、伊平屋村 0.73、大宜味村 0.62、東村 0.56 の順になり、人口千人あたり 0.50 以上の市町村が 5 町村あった（表-5、図-5,6）。

なお竹富町は、例年ほぼ受傷率 1 近くあるいはそれ以上ある。

ハブ類咬症者のいなかった市町村を除くと、受傷率の最も低いのは那覇市の 0.003 である。これは人口約 33 万人に 1 人の割合になる。ついで浦添市 0.009、宜野湾市 0.011 と続く。これは市街化が進んだために、住宅面積の割合が多く、山野や耕作地などの緑地面積が少なく、また人口の割に咬症患者が少ないため受傷率が低くなったと考えられる。ハブ類の生息する全市町村の平均は 0.059 で 10 万人に約 6 件である。

６.毒蛇の種類

沖縄県では、毒蛇による咬傷時に、咬まれた人が咬みついたヘビを目撃するのは咬症者全体のほぼ半数にすぎない。それは、ハブ類咬症のほとんどが見通しの悪い草むらや畑の中、夜間の暗がりの中で起こり、しかも咬んだヘビの多くがすぐに逃げてしまうために、確認できないからである。さらに、ヘビを目撃した場合でも多くの人が種類を判別できない。

咬症患者がヘビの種類を確認できない場合は、咬症後の痛みと傷の状態から毒蛇に咬まれたか否かを判断することになる。被害を及ぼす毒蛇が１種類のみの八重山地方ではサキシマハブと判断できる。

沖縄本島とその周辺離島でヘビに咬まれ、毒蛇と判断されかつ種類を確認できない場合には、ハブの可能性が最も高い。次いでヒメハブ、アカマタ、ガラスヒバァの可能性がある。

ガラスヒバァは毒蛇であるが、形態的に毒牙が口内の奥にあるために、咬まれても毒が注入されることは稀であると考えられる。またカエルを主な餌とするので水辺に生息し、ネズミを主な餌とし、生息域が人間の生活環境と交錯するハブとは異なり、人間との接触はかなり少ない。そのためこれまで、ガラスヒバァによる記録はない。

アカマタは生息域がハブ類と共通である。攻撃的で、人間を咬むこともあるが、咬まれて種の確認ができない場合でも、傷口が U 字型の多数の歯型からなることと、患部に腫れ、出血、強い痛みの症状を伴わないことから無毒蛇と確認できる。

一方、沖縄本島では自然分布しないサキシマハブ、タイワンハブ、タイコブラの 3 種の毒蛇が過去に捕獲されており、糸満ではサキシマハブ、名護市及び恩納村山田周辺ではタイワンハブが定

着している。特にここ数年、糸満市でサキシマハブの増加が確認されており、毎年数人の咬症患者が発生するようになった。タイワンハブも 05 年以降は 07 年以外毎年咬症患者が発生した。治療に関しては、ハブの近縁種であるタイワンハブによる咬症はハブの抗毒素で治療できることが判明している。タイコブラは 1993 年頃に捕獲された以外は 20 年近く目撃及び捕獲がないことから、定着している可能性は少ない。

７.月別咬症発生件数

ハブ咬症は例年秋に最も多く、次いで初夏に多い。また、冬期のサトウキビ収穫時にも若干増える。

平成 22 年は、ハブ咬症は 5 月が 9 件で最も多く、次いで 11 月 7 件、3,7 月 6 件、6 月 4 件、9 月 3 件、1,4,12 月 2 件、2,8 月 1 件の順であった。ヒメハブ咬症は 9 月に 4 件と最も多く、2,6,7,8,10 月に各 1 件だった。サキシマハブ咬症は 5 月に 6 件と最も多く、次いで 3,9,10 月に 3 件、4 月 2 件、1,2,6,12 月 1 件だった。(表-6、図-7)。タイワンハブは 11 月に 1 件発生した。

８.保健所別咬症件数

ハブ属４種合計の保健所別届け出数は、八重山福祉保健所の 21 件が最も多く、次いで南部福祉保健所の 19 件、北部福祉保健所の 18 件、中部福祉保健所の 16 件、中央保健所の 5 件であった(表-7)。

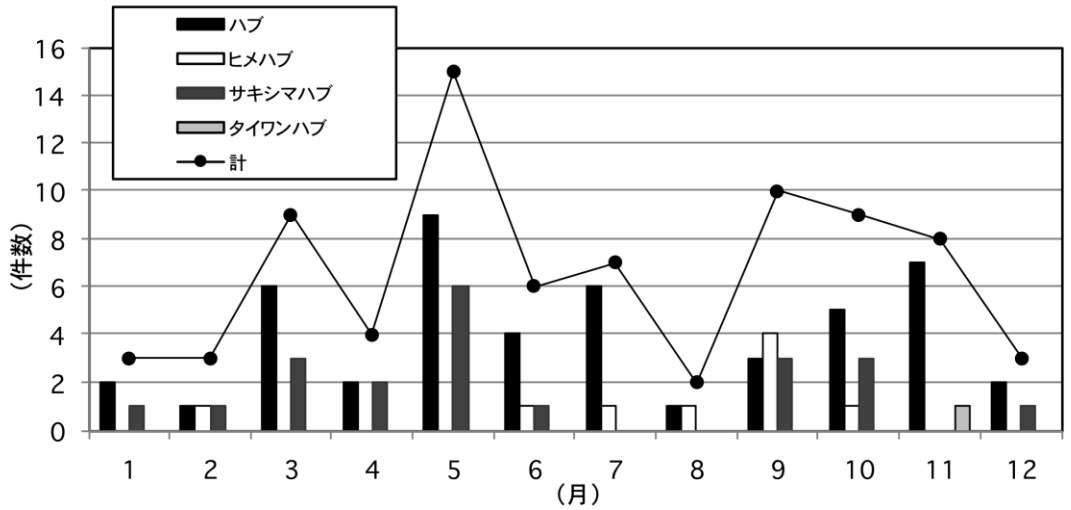

図-7 2010年月別ハブ類咬症件数

表-6 2010年月別ハブ類咬症件数

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
ハブ	2	1	6	2	9	4	6	1	3	5	7	2	48
ヒメハブ		1				1	1	1	4	1			9
サキシマハブ	1	1	3	2	6	1			3	3		1	21
タイワンハブ											1		1
計	3	3	9	4	15	6	7	2	10	9	8	3	79

表-7 2010年 届出保健所別月別ハブ類咬症件数

保健所	種名＼月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
北部	ハブ			1		1	3	1			3	1	1	11
	ヒメハブ						1	1		4				6
	タイワンハブ											1		1
	計			1		1	4	2		4	3	2	1	18
中部	ハブ		1	1	1	4		2		1	1	3		14
	ヒメハブ		1						1					2
	計		2	1	1	4		2	1	1	1	3		16
南部	ハブ	2		3	1	3	1	2		2		3	1	18
	ヒメハブ										1			1
	計	2		3	1	3	1	2		2	1	3	1	19
中央	ハブ			1		1		1	1		1			5
八重山	サキシマハブ	1	1	3	2	6	1			3	3		1	21

9. 場所別の咬症発生件数

ハブ咬症の起こる場所は、例年、最も多い畑が約 40%を占め、屋敷内と家屋内とを合わせて 4 分の 1、残りが道路や山林、草地で発生している（図-8、表-8）。

平成 22 年も例年と同様畑での咬症件数が一番多く、19 件（40%）で特にキビ畑がその半数以上の 10 件（53%）を占めた。次に多かったのが屋敷内の 12 件（25%）で、屋内の 3 件（6%）も合わせた屋敷全体だと 31%となった。このように、ここ数年家屋内での被害が増加しており、ハブの侵入を防ぐ対策などの普及に努めることが重要である。

なお残りは道路 6 件（13%）、山林・草地 5 件（10%）、その他 3 件（6%）となった。

ヒメハブ咬症は、屋敷内 6 件（67%）、山林・草地 2 件（22%）、畑 1 件（11%）であった。

サキシマハブ咬症は、畑が 10 件（48%）と最も多く、次いで、屋敷内が 5 件（24%）その他 3 件（14%）、道路 2 件（10%）、屋内 1 件（5%）の順だった。

タイワンハブ咬症は畑の 1 件であった。

4 種の合計では畑が 31 件（39%）で最も多く、次いで、家屋内と屋敷内を合わせた屋敷全体が 27 件（34%）それ以外の合計が 21 件（27%）であった。畑、屋敷全体での咬症共に前年より減少した。屋敷全体という人の生活圏における咬症の相対的な増加傾向が続いており、より一層の対策が必要である。

10. 時刻別咬症件数

ハブが夜行性であるにもかかわらず、ハブ咬症は日中に多い。これは、咬症者の 39%が畑で咬まれており、畑での咬症は農業従事者の労働時間である日中に起こることが多いためである（表-9, 10、図-8）。

草地と山林での咬症も人間の活動時間である日中に多い。

道路での咬症は逆に暗い夜間が多い。夜行性であるハブは、道路のようなオープンな場所に日中出現するのはきわめて稀で、ほとんどは、夜間の暗い路上を歩行中、ハブに気付かずに咬まれたものである。

屋敷内および家屋内での咬症は昼夜の差はみられない。これは、夜間に侵入してきたハブに侵入直後に咬まれる場合と、侵入後、物陰に隠れていたハブに日中もしくは夜間に咬まれるためと推測される。

表-8 2010年 場所別咬症件数

場所	ハブ	ヒメハブ	ｻｷｼﾏハブ	ﾀｲﾜﾝハブ	計
屋内	3		1		4
屋敷内	12	6	5		23
畑	19	1	10	1	31
道路	6		2		8
山林草地	5	2			7
その他屋敷外	3		3		6
計	48	9	21	1	79

表-9 2010年 動機別咬症件数

動機	ハブ	ヒメハブ	ｻｷｼﾏハブ	ﾀｲﾜﾝハブ	計
就寝中	1				1
用便中	1				1
室内の他の動作			1		1
通行中	12	3	2		17
キビ刈り中	5	1			6
農作業中	11		6	1	18
草刈り中	5	3	7		15
ハブ扱い中	2		1		3
屋外の他の動作	11	2	3		16
不明			1		1
計	48	9	21	1	79

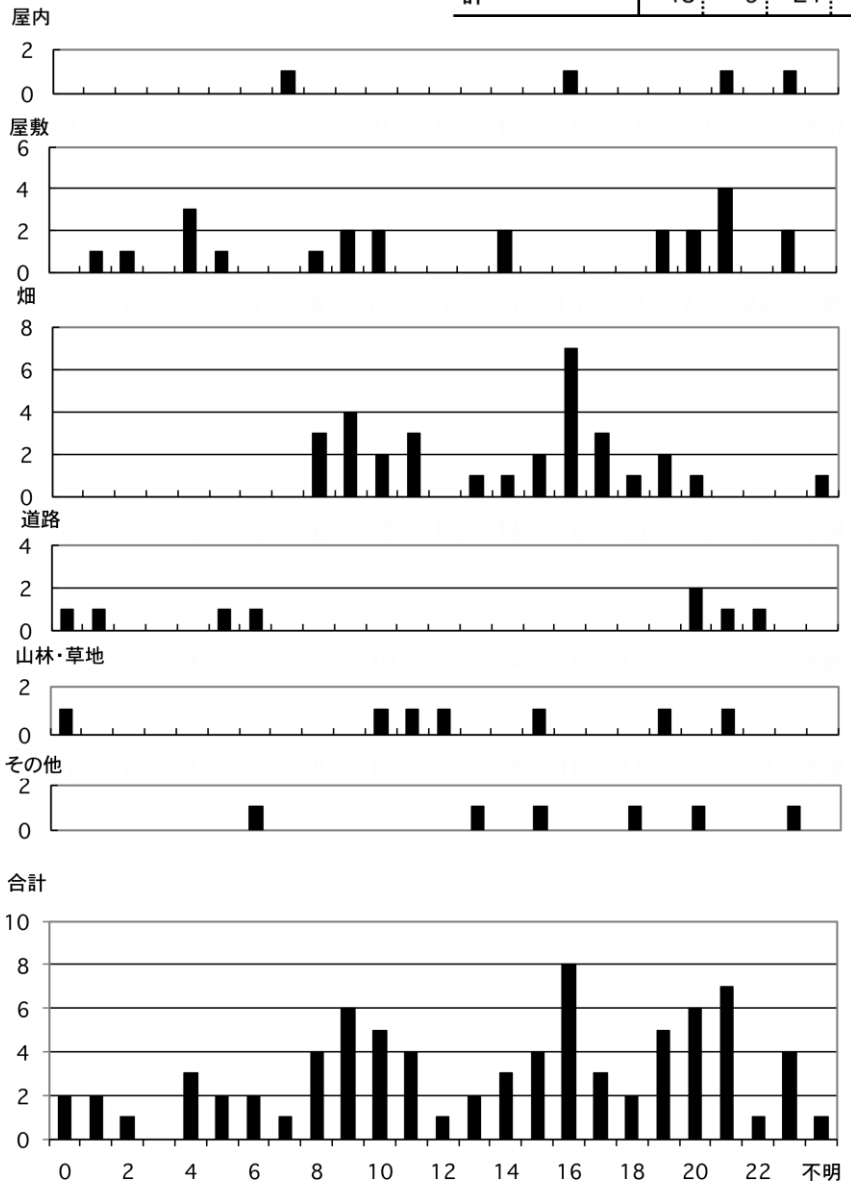

図-8　2010 年　時刻別場所別ハブ類咬症件数（4 種計）

表-10 2010年 場所及び時刻別ハブ類咬症件数（四種計）

場所＼時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	不明	計
屋内								1									1					1		1		4
屋敷		1	1		3	1			1	2	2				2					2	2	4		2		23
畑									3	4	2	3		1	1	2	7	3	1	2	1				1	31
道路	1	1				1	1														2	1	1			8
山林・草地	1										1	1	1			1				1		1				7
その他							1							1		1			1		1			1		6
計	2	2	1	0	3	2	2	1	4	6	5	4	1	2	3	4	8	3	2	5	6	7	1	4	1	79

11. 咬症部位

ハブの場合、手指18件（37%）、足12件（24%）、下腿6件（12%）、手5件（10%）、前腕・足指・大腿・頭部各2件（各4%）であった（表-11、図-9）。

ヒメハブは手指4件（4%）、足指・足各2件（各22%）、手1件（11%）であった。

サキシマハブは、手指9件（43%）、足7件（33%）、手4件（19%）、下腿1件（5%）であった。

タイワンハブは手指1件である。

なお、一人の患者が複数箇所咬まれている場合があるため、咬症件数とは数字が異なる場合がある。

沖縄県での毒ヘビ咬症は、手足の先端に近い部分を咬まれることが多い。特にサキシマハブとヒメハブは体長が小さいために攻撃距離が短く、咬症部位は身体の末端に限られ、頭部や胴体などをかまれることはほとんどない。

12. 年代別、性別発生件数

4種類の合計でみると、ハブ類咬症の多い年代は40代から70代にかけてである（図-10、表-12）。

咬症患者の性比は、男性61名、女性18名と約3：1 で男性が多い。これは咬症者の最も多い、畑での作業者が高齢の男性に多いことに起因する。

咬症患者の最小年齢は12歳の女子で、10月15日の20時半頃、自宅の庭を歩行中、右下腿を咬まれた。出血・腫脹・疼痛があり、すぐに病院へ搬送され、はぶ抗毒素血清を6.000単位投与された。8日間入院した。経過は良好で完全治癒した。

最高齢は過去に1度受傷歴のある84歳の男性で、3月23日の16時50分頃、キビ畑で農作業をしていたところ右足を咬まれた。出血・腫脹があり、病院に運ばれはぶ抗毒素血清を6,000単位投与された。

13. まとめ

沖縄県における平成22年の毒蛇咬症件数は、ハブ48件、ヒメハブ9件、サキシマハブ21件、タイワンハブ1件の計79件であった。これはここ5年では最も少ない被害件数である。南部八重山地域の大きな減少がこの件数に繋がっている。なお北部地域では増加、中部地域では横ばいの状況であった。

ここ数年、糸満市で起こっているサキシマハブによる咬症及び2005年から起こっているタイワンハブによる咬症という外来種による咬症が目立ってきている。その対策を講じなければならない。

表-11 2010年 部位別ハブ類咬症件数

部位＼種		ハブ	ヒメハブ	サキシマハブ	タイワンハブ	計
手	指	18	4	9	1	32
	手	5	1	4		10
	前腕	2				2
足	指	2	2			4
	足	12	2	7		21
	下腿	6		1		7
	大腿	2				2
頭部		2				2
計		49	9	21	1	80

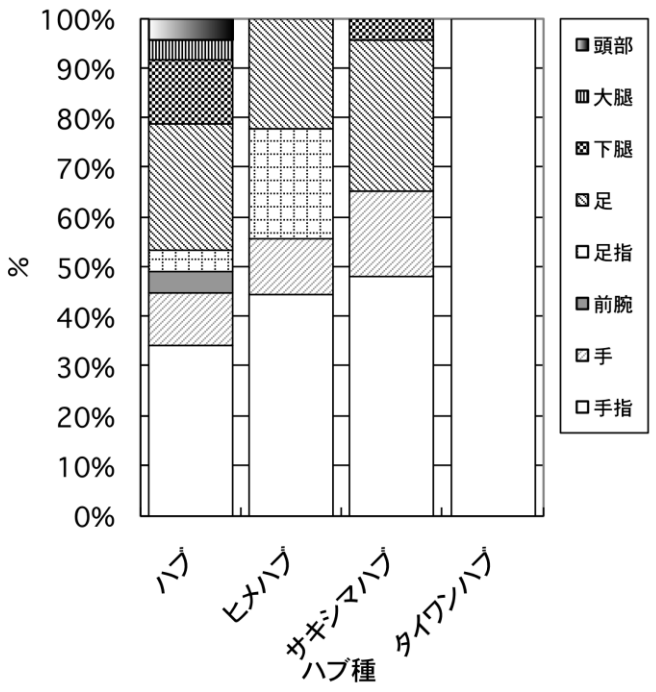

図-9 2010年部位別ハブ類咬症発生率

表-12 2010年 年代別ハブ類咬症件数

種類	年代	10	20	30	40	50	60	70	80	計
ハブ	男	2	4	2	6	12	9	4	2	41
	女	1				1	3	1	1	7
	計	3	4	2	6	13	12	5	3	48
ﾋﾒﾊﾌﾞ	男	1		1	1			2		5
	女					4				4
	計	1		1	1	4		2		9
ｻｷｼﾏﾊﾌﾞ	男			2	3	5	2	1	1	14
	女		1			1		4	1	7
	計		1	2	3	6	2	5	2	21
ﾀｲﾜﾝﾊﾌﾞ	男					1				1
	女									
	計					1				1
4種計	男	3	4	5	10	18	11	7	3	61
	女	1	1			6	3	5	2	18
	計	4	5	5	10	24	14	12	5	79

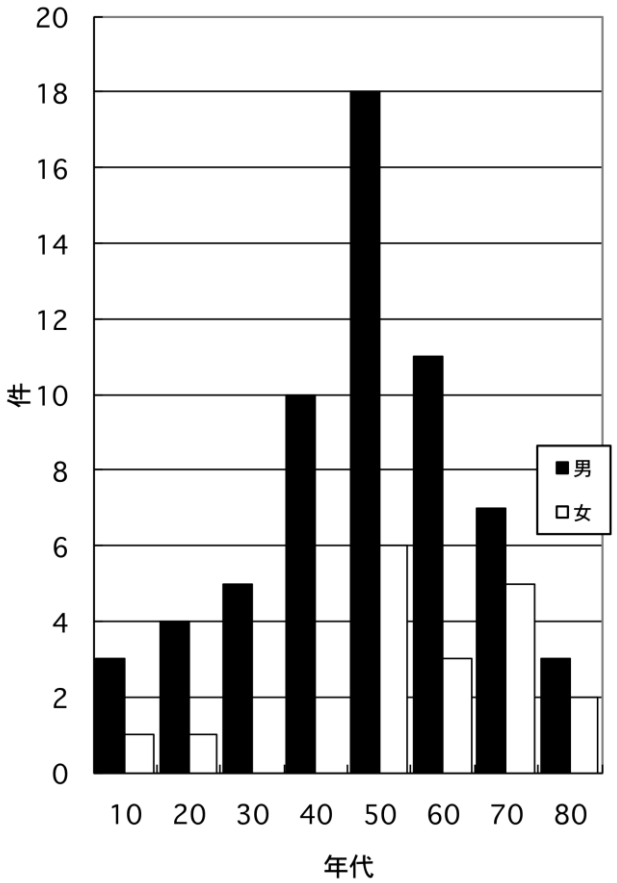

図-10 2010年年代別男女別咬症件数